

学習の設計について

■プログラムのねらい

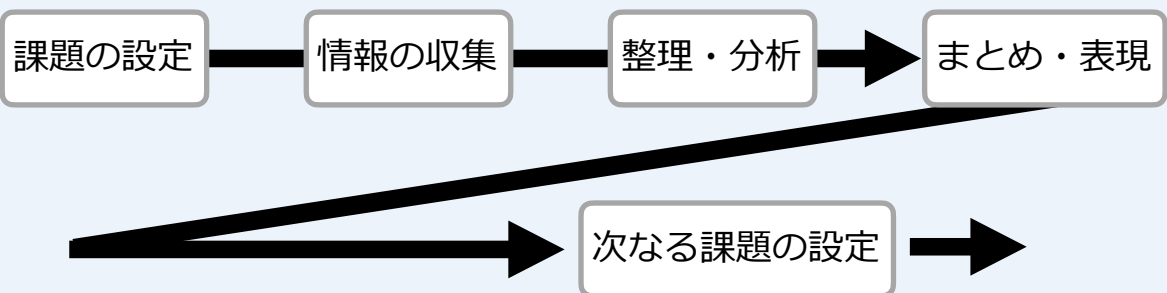
本プログラムでは、生徒にとっての学ぶ意義や目的を明確にすることを重視している。自ら課題を発見し、また解決する過程で、取材という形で地域の様々な人との関わりが生じるようにデザインしており、「自分の力で解決することができた」、「自分の取組が地域を動かした」、「自分たちは地域や社会の一員である」などの、課題の解決に取り組んだことへの自信や自尊感情、責任感が育まれ、地域や社会の一員であるとの意識も醸成されるとともに、自己の在り方生き方を深く省察するといったことが期待される。これらのことに配慮しつつ、2つの目標を以下のように定めている。

目的① フィールドワークを通じて参加者の主体的な課題発見/解決能力を身に着けること

目的② フィールドワーク型学習の参加者が県内ものづくり企業への多面的な理解を深めること

■学習プロセスと得られる能力

プログラムを通して得られる能力を大きく思考力、判断力、表現力と分け、それぞれの能力がどのようなプロセスで深まっていくかを設定し、そのプロセスを学習プログラム内にデザインしている。具体的には、Project Based Learning (PBL) の形式に沿って、課題を設定し、課題及び課題解決に関する情報を収集し、その情報を整理分析して課題についてどのようなアプローチがとれるかを明らかにする、そしてその内容をまとめて表現して、そこからさらに新たな課題を見つけ、更なる問題の解決を始めるといった学習を発展的に繰り返す。



①課題の設定

- ・複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する
- ・仮説を立て、検証方法を考え、計画を立案する

- ・より複雑な問題状況の把握
- ・確かな見通しを立てる
- ・新たな仮説設定

②情報の収集

- ・目的に応じて手段を選択し、情報を収集する
- ・必要な情報を収集し、類別して蓄積する

- ・より効率的・効果的な手段
- ・多様な方法からの選択

③整理・分析

- ・複雑な問題状況における事実や関係を把握する
- ・相手や目的、意図に応じて論理的に表現する
- ・視点を定めて多様な情報を分析する

- ・より深い分析
- ・確かな根拠付け

④まとめ・表現

- ・相手や目的、意図に応じて論理的に表現する
- ・学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かす

- ・より論理的で効果的な表現
- ・内省の深まり

学習の設計について

■取材を軸とした学習プログラム

徳島県内のものづくり企業、特に名工と称される技術者を抱える組織に重点を置き、各企業の取材を通して目標の達成を目指す。また県内ものづくり産業に関する情報を発信するプラットフォームの設立を前提としており、それに伴い、学習プロセスでは取材による情報の取得を課題として設定し、その情報収集の方向性をプラットフォーム設立の目的から逆算して定める。

■学習の全体像

高校生の取材チームを編成し、互いの相互理解をある程度深めた段階でプロジェクトの内容を進める。最初にプロジェクトの起点となる課題設定にあたり、事前学習を通してものづくり産業に関する理解を深める。その後、情報収集の目的についてチームで考え、取材に関する技術・方法論について学ぶ。次に取材先を決め、取材先に関する調査を進め、質問シートの作成という形で取材準備を行う。取材後はルーブリック形式で自己評価とチーム評価をした上で振り返りをし、取材記事の執筆をする。最後にプロジェクト全体での振り返りを行い、①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現に関して深く考える。

■学習のStep

Stepに沿って学習を進め、各Stepでの課題を設定しながら学びを深めていく。

Step1.事前学習

- ・現状把握（徳島県のものづくりに関する知識の再確認）
- ・現地取材に向けた情報収集
- ・仮説の構築(対象取材先に関する様々な仮説の構築)
- ・仮説に基づく課題解決に向けた企画
- ・この企画に基づいた現地取材の内容の企画



Step2.現地取材

- ・現地における取材対象とのコミュニケーション
- ・事前に企画した取材の実施



Step3.振り返り学習/アセスメント

- ・学習全体の振り返り
- ・学習のアセスメント



Step4.コンテンツ造成

- ・取材結果の整理
- ・コンテンツの造成(指導あり)
- ・コンテンツの公開

Step5.振り返り学習/アセスメント

- ・学習全体の振り返り
- ・学習のアセスメント